

中国中央病院広報誌

# 青いそら

2023年春号

< 病院理念 > 患者さん中心の人にやさしい良質の医療を提供します

P.2~5

## 特集 助産師のしごと

助産師外来  
アドバンス助産師  
行政・地域との連携

学術大会	P. 6
新任医師紹介	P. 7
初期研修を振り返って	P. 8
外来診療担当医表	P. 10
栄養メニュー / 地域連携室だより	P. 12

2023年4月



中国中央病院HP



中国中央病院  
卒後臨床研修サイト



撮影 リハビリテーション科 | 種本翔

# 助産師のしごと

お母さんと赤ちゃんのために



## 助産師とは？

助産師は、女性の一生にわたり、心とからだのケアや保健指導を行う専門職です。助産師になるには看護師と助産師の国家資格が必要になります。

病院では主に、お産の介助や妊娠・出産・産後の母子とご家族に対して、健康に関する指導や相談を行います。

今回はその内容を詳しくお話します。

## 外来妊婦相談室

医師による妊婦健診後、助産師による保健指導の場として、外来妊婦相談室を開設しています。

子育てに不安を抱えている、経済的な不安がある、ご家庭の事情を抱えているなど、さまざまな相談に個別で応じています。

また、妊娠中に起こりうる不快症状への対応や安産に向けての身体づくりなど、マタニティライフをより快適に過ごせるよう心と身体の支援に力を入れています。

その他、行政や地域助産師と連携を取りながら、妊娠中から切れ目ない支援ができるよう助産師が寄り添います。お気軽にご利用ください。

## アドバンス助産師

日本助産師評価機構の認証制度によってレベルⅢ認証を受けた助産師は、自律した助産実践能力を持ち「アドバンス助産師」と呼ばれています。

現在6名のアドバンス助産師が在籍し、うち5名が産科病棟で勤務しています。

アドバンス助産師は、お母さんの持っている力を引き出し、主体的なお産と、その後の育児を支えるためのアドバイスをを行う強い味方です。

また、生命誕生のすばらしさや生命に携わる職業を紹介したいという思いから、中学校や高等学校へ出向き「生命の大切さ」を伝える出前授業を実施しています。「自分を産んでくれたお母さんに感謝したい」「将来助産師になりたい」、「自分だけでなく、周りの生命も大切にしたい」と、参加した学生さんから感想をいただき、助産師の励みになっています。

その他、近隣の病院から助産師の出向を受け入れ、アドバンス助産師が中心となって共にスキルアップをしています。妊娠・出産・産後のケアや産科救急など幅広く学ぶことができ、互いに最新の情報をアップデートしながら、技術や知識を深める機会となっています。



## 助産師外来

2013年に助産師外来を開設しました。

妊婦さん自身が産み育てる力を身につけ、安心して楽しい妊娠・分娩・産褥期を過ごせるように助産師が妊婦健診を担当しています。

妊婦健診では、超音波検査で赤ちゃんの様子を時間をかけて見ることができたり、妊娠による不快症状を改善するための骨盤ケアや安産に向けた身体づくりについてお話ししたりしています。

また、妊婦さんの思いを聞きながら、妊婦さんが主体となって出産育児を乗り越えていくためのパースプランを一緒に考えます。

助産師外来を利用するには、産婦人科医師の許可が必要になりますので、希望される方は健診時にお知らせください。

助産師外来は、開始から2022年12月現在まで、延べ1,626人が利用されています。



助産師による超音波検査の様子



肩甲難産のシミュレーション研修



医師・助産師・看護師の勉強会

## 院内助産

2020年4月からアドバンス助産師が中心となり、院内助産を開始しました。

院内助産とは、産婦さんご家族のバースプランに沿って産婦さん主体の「お産」ができる体制のことです。私たちは、「的確な助産実践能力を身につけ、母子とその家族に寄り添った思いやりのある助産を提供すること」を理念としています。緊急時に備え、シミュレーショントレーニングや勉強会を定期的開催し、必要時には産科医師が対応できる体制となっています。助産師は、問診や身体を診ながら骨盤のゆがみ、腸の緊張、身体の冷えを観察し、正常に分娩が進行できるように助産ケアを考えています。

例えば…

- ・アロマ芳香浴やマッサージを行い、緊張している心と身体をリラックスさせるケア
- ・骨盤のゆがみを整えるバランスボールや操体法などの骨盤ケア
- ・疲労や冷えなどで陣痛が弱くなってしまう場合の足浴や温罨法による全身の保温ケア
- ・赤ちゃんの頭が産道を通過できるように、カンファチュアの使用や緊張をほぐし、身体を整えるケア
- ・つらい陣痛を乗り越え、「自分で赤ちゃんを産めた」という達成感・満足感を感じてもらえるような声かけ

助産師が寄り添いながら、さまざまな助産ケアを組み合わせていきます。分娩が正常に進行している場合、産科医師は医療的処置をせず、側で見守っています。






## 乳房ケア

痛くない乳房ケアを目指して、「<sup>きゅうてつ</sup>児の母乳吸啜メカニズムに基づく乳房ケア」=BSケア (Care based on the Breast-feeding Infants' Suckling Mechanisms) を学び、母乳育児のための援助を行っています。

母乳は、消化吸収しやすいのでアレルギーになりにくいことや、母乳中には免疫成分が含まれることでウイルスや細菌の侵入を防ぎ病気にかかりにくいと言われています。また、乳幼児突然死症候群 (SIDS) のリスクを減らせる、経済的で新鮮な母乳をいつでも安心して飲めるという利点があります。


BSケアを行うと、お母さんのおっぱいは赤ちゃんが飲みやすいおっぱいに変化し、授乳の準備が整います。赤ちゃんが生まれ持っている吸啜のメカニズムに感動する瞬間です。



## 入職して1年経ちました




お母さんに寄り添うケアを目指します



私は入職して1年間、消化器内科チームで看護業務を経験しました。先輩方の温かい指導の下、安全安楽に看護を行うために重要な知識・技術、患者さんご家族との関わり方など多くのことを学びました。

春から産婦人科チームで助産業務を行います。学んだことを活かしながら、助産技術の習得に向けて自己研鑽に努めていきます。



## 新型コロナ陽性の お母さんとの関わり

新型コロナ陽性となり、隔離期間中に分娩に至った産婦さんに関わる中で、産後のメンタルヘルスへの支援が重要であると感じています。

出産後の母子分離による孤独感や赤ちゃんに会えない不安、感染してしまったことに対する自責の念を感じているお母さんに対し、タブレットを用いた面会や、日々の写真を届けることで、前向きに育児を始められるよう関わっています。乳房ケアが必要であれば、隔離中であっても感染予防対策を行い必要なケアは助産師が実施しています。

また、母子分離で十分な育児練習ができないため、希望される方には、隔離解除後も入院を継続し不安軽減のための退院後をイメージした育児指導を行っています。



## 産後ケア入院

2022年12月から福山市、神石高原町、府中市、井原市の委託を受け、産後ケア入院を開始しました。

心身の不調がある方や退院後のサポートが必要な方が、市町村に事前申請することで入院期間を延長して、助産師の指導を受けながら育児の練習をすることができます。退院後の生活を見据えたアドバイスが受けられることが産後ケア入院の良いところです。

要件は市町村によって異なりますので、各市町村にお問い合わせください。



福山市子育て支援サイト



府中市子育て支援サイト  
ちゅちゅ



神石高原町  
産後ケア事業



井原市  
産後ママあんしんケア事業



## 産後2週間健診

産後2週間は、育児の疲れや悩みが増す時期です。お母さんの身体の変化や赤ちゃんの成長を確認しながら、助産師が1人45分の予約枠でゆっくりお話を聞き、授乳や育児、生活についてのアドバイスをしています。

お母さんは、赤ちゃんの成長を実感したり、困り事を相談したりと穏やかにお話されます。精神的サポートが必要な場合には、臨床心理士と連携しカウンセリングを受けることもできます。



## 地域助産師との連携

コロナ禍で面会制限が続く中、里帰りをせずにひとりで育児を開始するお母さんもいます。

私たちは、入院や外来受診だけでは支えられないお母さんたちの育児支援や精神的サポートができないかとジレンマを感じていました。そのような中、福山市で活動されている地域助産師「となりのSANBA」の存在を知り、連携してサポートしていくことになりました。気軽に相談できる助産師が身近にいることを、外来妊婦相談室や退院指導、産後2週間健診でご紹介しています。



福山地域助産師の会  
「となりのSANBA」

## エジンバラ産後うつ病質問票

母親自身が質問項目を読み、自分の気持ちに最も近い回答を選ぶという形式で行い、その点数がうつ病のスクリーニングに用いられると同時に、支援者が母親とコミュニケーションをとり、傾聴と共感という基本的なメンタルケアを行うためのツールとしても用いられます。

日本産婦人科医会の母と子のメンタルヘルスケアのホームページでは、日本に住む外国人向けの外国語版もダウンロードできます。



4きた病棟スタッフ

今後も、母子に寄り添いながら健やかなマタニティライフと切れ目ない支援を提供できるよう、体制を整えてまいります。中国中央病院で子育ての第一歩を踏み出してみませんか？助産師一同お待ちしております。

4きた病棟 看護師長・アドバンス助産師  
三浦 美保





# 第15回中国中央病院学術大会

白井臨床研修医が最優秀賞



玄馬病院長と白井臨床研修医

2023年2月10日、当院の講堂で第15回中国中央病院学術大会を行いました。

この学術大会は、年1回この時期に行い、院内すべての職種の職員が一堂に会して日常の診療・業務における問題点、改善策や研究成果などについて発表し、討議します。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で開催が危ぶまれましたが、現地会場とWeb配信を併用したハイブリッド形式にて無事開催することができました。

一般演題として6題がエントリーされ、最優秀賞には臨床研修医・白井宏実医師、優秀賞には臨床検査科・宮本一代技師、看護部4きた病棟・丹賀絵美看護師が選ばれました。今大会もコロナ禍で業務が多忙の中、計118名の方々に参加していただきました。

職員の表現力を養う場として、また当院の医療の質的向上に寄与していくため、今後も継続して開催していく事が大切であると考えております。

土井佑城



宮本一代臨床検査技師



丹賀絵美看護師



藤高浩輝薬剤師



粟村朋香管理栄養士

## プログラム

1. Surface image systemを用いた呼吸制御技術の臨床応用に関する研究  
放射線科 大原健佑
2. パートナシップ・ナーシング・システム (PNS) 導入に伴う看護師の職務に対する意識変化やPNSの成果と課題 -効果的なPNSを目指して-  
看護部 (4きた) 丹賀絵美
3. アナモレリンを使用したがん患者に食事介入を行った一例  
栄養管理室 粟村朋香
4. コロナ禍の検査体制 -急遽発生する検査職員の自宅待機に伴う人員不足に対応するため-  
臨床検査科 宮本一代
5. 炎症型の皮膚転移から精査を行い原発不明癌として治療した一例  
臨床研修医 白井宏美
6. オピオイド使用により右外耳道癌患者においてケミカルコーピングが疑われた一例  
薬剤部 藤高浩輝



## 2年間の初期研修を振り返って

2023年3月、4名の研修医が当院での2年間の初期臨床研修を修了しました。

研修にご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

4月からは、専門医を目指して様々な研修病院で後期研修をスタートさせています。

当院で学んだ経験を活かし、さらに飛躍されることを期待しています。身体に気を付けて頑張ってください。

研修プログラム責任者 安藤由智

### 初期研修を終えて

2021年の新型コロナウイルス感染症流行の真最中のなか研修生活を始めさせていただきあっという間に2年間が終わりました。無事におえることができたのも先生方はじめ、スタッフの皆様のおかげです。この場をお借りして心から感謝いたします。

何もわからない状態で多くのご迷惑をおかけしたと思います。しかし、そのたびにどうすればいいか、また失敗しても次にチャレンジできるような雰囲気になっていたのおかげで、いろんなことにチャレンジすることができました。このようなあたたかな雰囲気で研修生活を送れたことは自分にとってとても幸運なことでした。

今後経験を積んでいき、ここで自分にさせていただいたことをできるよう医師になっていきたいと思えます。

4月からは岡山に戻り岡山医療センターで内科専攻医として研修をおこなっていくことになっております。内科医としての知識、経験を積みながら血液内科医としての専門知識を学んでいきたいと思えます。

2年間という短い期間ではございましたが、ありがとうございました。

大道勇介



### 感謝の気持ちでいっぱいです

長く感じる間もなく、あっという間に過ぎ去ってしまった2年間でした。

縁もゆかりもない土地で、初めて社会人として働きはじめ、最初は不安と至らなさでたまりませんでした。

しかし、親身になってくださる上級医の先生方や優しい先輩方、なんでも言い合える同期、頼もしい後輩たち、そっと助けてくださるコメディカルの方々に恵まれて、なんとか2年間を終えることができました。何もできなかった私に多くのことを教えてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。研修内容も院内だけに留まらず、院外での研修も多くさせていただき、多くの診療科を回らせていただきました。たくさんの出会いを経て、いかに多くの方々に助けられているか気づかされる毎日でした。

特に、志望科の皮膚科の先生方には熱心にご指導いただき、経験値を積みさせていただきました。さまざまな症例を当てていただき、診療内容もアクティブな治療をされており、学びの多い場でした。

新年度からは出身大学である徳島大学に戻り、皮膚科医としてまた1からスタートする予定です。ここでの環境が恵まれすぎていて、なかなか離れ難く思えます。経験も浅く、まだまだ未熟な部分も多いですが、中国中央病院での経験を活かして新天地でも努力精進致します。

この2年間支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

白井宏実





## 初めての担当患者さん

2年前、私は緊張いっぱい中国中央病院を訪れました。それ以前もアルバイトの経験はありますが、初めての社会人、それも名札には立派に総合臨床医と記載されています。勿論6年間医学を学びましたが、不安でいっぱいでした。そんなわけで、私の初期研修医生活はスタートしました。

4月の第1週目から新規入院患者様の担当医に就かせていただきました。最初は患者様のお部屋へ何うのもドキドキで、分からない事を聞かれたらどう答えよう、最新の検査結果はどうだったかなど、ノートいっぱいに予習を書き込みお部屋へ向かいました。

初めての患者様を今も鮮明に覚えています。詳しくは言えませんが、緩和治療の方針となった方です。私が率先してできる事は、毎日の挨拶や軽い世間話でした。

初日はぶっきらぼうで無口、否定的な一言ばかりでしたが、毎日続けていると、ちらほら笑顔な日やたくさん話してくれる日もありました。そんなある日、院内の美容院で髪の毛を切ったようで、「似合いますね！いい感じですよ！」と伝えると、照れ臭そうに「そう？ありがとう。」と言ってくださった事を今でも覚えています。

その後は別施設でお亡くなりになったのですが、少しでも辛くない瞬間を与えられたらどうか、もっと他に何ができたらどうかと今も自問しています。

こうしてこの2年間多くの患者様と出会い、医師としての知識や技術、人としての正しさなどを試行錯誤しながら、目まぐるしい速さで過ぎていきました。ここまで来れたのも周りの皆様の多くの支えがあってこそだと感じています。今後も精進していきます。ありがとうございました。

岸愛恵

## 引き続き当院で研修させていただきます

2年間、大変お世話になりました。内科を半年間研修させていただいた後、院内では整形外科、麻酔科、外科、産婦人科、放射線科、皮膚科、救急、そして再び内科を、院外では福山循環器病院、大田記念病院、前原病院、藤井病院をローテートさせていただきました。

新しい科を回るたびに分からないことに沢山出会いましたが、院内・院外問わず先生方、コメディカルの方々にその都度優しく丁寧にご指導いただき、無事研修を終えることができました。

研修を契機にこちらにやってきてまだ2年しか住んでいませんが、医療職の方々だけではなく患者さんにも優しく接していただき、福山という土地がとても好きになりました。良い同期にも恵まれ、離ればなれになるのはとても寂しいです。

新年度からは内科専攻医として、引き続き当院で研修をさせていただきます。今まで以上に気を引き締めて、頑張っていきたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

高橋 里鶴





## 栄養メニュー



## 材料 (10個分)

- 白玉粉 80g
- 砂糖 小さじ1
- 水 120~150cc
- あんこ 200g
- うぐいすきな粉 大さじ4~5

## 栄養量 (1個分)

エネルギー	57kcal
たんぱく質	2.5g
食物繊維	1.4g



## 作り方

- 1 あんこを10等分に丸めておく。
- 2 白玉粉、砂糖、水を耐熱ボールに入れ、粒がなくなるまでよく混ぜる。
- 3 レンジで600W、ラップなしで1分加熱。取り出してよく混ぜる。餅にツヤが出るまで繰り返す。
- 4 バットにうぐいすきな粉を入れる。
- 5 その上に熱いうちに餅を乗せ、両面にうぐいすきな粉をつける。
- 6 餅をねじるようにして10等分にする。
- 7 餅を伸ばして、あんこを包む。  
手にきな粉をつけながら形を整えて、できあがり！



春の和菓子といえば…「うぐいす餅」もそのひとつ。きな粉には、たんぱく質や食物繊維、鉄分が豊富に含まれています。さらに、うぐいすきな粉は、黄大豆を使用したきな粉に比べ、βカロテンが15倍多く含まれています。電子レンジで簡単に作れるので、「ちょっと一息」お茶のお供にいかがでしょうか。

レシピ 調理師 小島壮真  
文責 栄養士 木原知子

地域連携室だより VOL. 24

## 第37回オープンカンファレンス 肺がんの縮小手術



荒木恒太外科医長

2023年3月9日、第37回オープンカンファレンスを開催いたしました。

外科医長荒木恒太医師が、肺がんの外科診療一般についての講演の後、縮小手術の変遷や術式の実際、縮小手術の課題を克服するために当院で実施している取り組みをご紹介します。

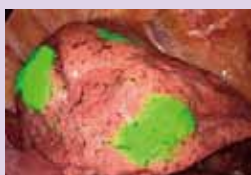
### 講演内容

日本で行われた試験 (JCOG0802, 0804) の結果を受けて、2022年度版の肺癌診療ガイドラインからは縮小手術が標準術式に位置づけられることになりました。手術を受けられる患者さんの高齢化という点からも、今後は負担の少ない縮小手術の増加が見込まれます。

一方で、縮小手術の中でも特に区域切除は、肺葉切除や部分切除と比べて難易度が高く、導入が進んでいない施設もあるのが現状です。当院では、ICGという蛍光色素を血管内投与するという一般的な使用方法のみでなく、呼吸器内科や放射線技師の協力の下、気管支鏡で投与する方法 (気管支鏡下肺マッピング) を臨床試験として行うことで、区域切除の精度を高め複雑な術式の実施が可能になっています。

また、手術には胸腔鏡というカメラを用いますが、従来は3~4つの小さな穴で実施してきた手術を、1つの穴 (単孔式手術) で行うことによって、負担のさらなる軽減に努めています。

当院HPの呼吸器外科ページにて、より詳しくご紹介しておりますので、ぜひご覧ください。



ICGを用いた気管支鏡下肺マッピング



単孔式手術

今回は、WEBと会場に院内外の医師や看護師、事務職員等、74名にご参加いただき、大変ご好評をいただきました。今後の開催予定は、決まり次第HP等でご案内いたします。

地域連携室 山内玲子 外科医長 荒木恒太

## 編集後記

陽春の候、いかがお過ごしでしょうか。新生活が始まった方も多いかと存じます。院内にも新しい風が吹いています。私はボカボカ陽気な気分で「春を愛する人は〜こころ清き人〜」と四季の歌を口ずさんでしまいました。看護師にプレゼントしたら口伝えに広まった歌だそうです。季節の変わり目、体調を崩しやすい時期ですが休息も大切に。今年度も充実した日々となりますように。

広報委員会

## 青いそら〈第152号〉

発行 広島県福山市御幸町大字上岩成148-13  
公立学校共済組合中国中央病院  
TEL.084-970-2121(代) FAX.084-972-8843

発行人 病院長 玄馬 顕一

令和5年4月27日発行

<https://www.kouritu-cch.jp>

編集：広報委員会 安藤由智 田野智之 荒木恒太 尾形佳子 村上直治 大塚謙 西井育子 栗村朋香 藤井美名 上窪ちなみ 藤井恭子 齋藤敬太 三浦美保 後藤大 森川薫

